

東国文化自由研究

「埴輪はゆるいのか？」

埴輪の造形を考える

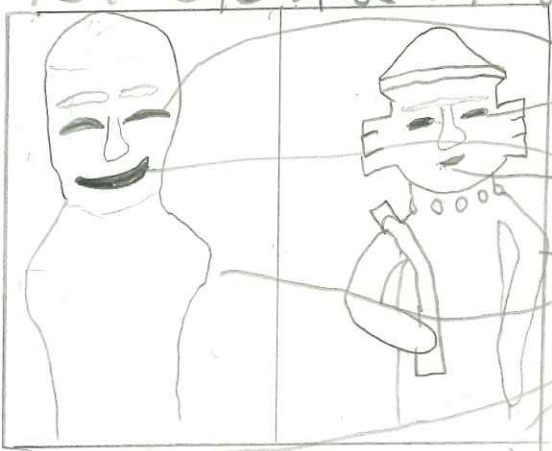


太田市立生品小学校
6年 岡田 史弥

埴輪についての疑問

ぼくは埴輪を初めて見た時、失礼だけど、とても雑に作っているのではないかと、思ってしまった。王様のお墓に置かれているのに、笑っていたり、ぼーとした丸い目がくり抜かれているからです。形もあまりリアルではありません。古墳時代にこれを観た人は気にならなかつたのだろうか？

この疑問について、埴輪の歴史や美術の本、博物館で調べて、考えてみることにしました。そして実際に自分でも埴輪を造って、古墳時代の人よりも、と上手にできないか挑戦してみたいと思いました。



目が穴があいているだけ

口が適当に見える

うでに関節がない

足がまともにできているものが少ない

疑問について ぼくが予想する答え

①古墳時代は適当に作っても良かったのかもしれない。

②ぼくは古代の後の、仏像や、木や石のちょう刻など立派な作品をたくさん知っているから、それらと比べてしまう。でも、古墳時代の人には、何も知らないし、技術もなかつたから仕方ない。

「埴輪についてわかったこと」

○埴輪はいつ造られたか

埴輪は3世紀から7世紀はじめごろに造られた粘土の焼き物です。王の墓である古墳に置かれたお供えの土器からはじまり、形を変えて発展しました。(まとめの表)

○埴輪はどこで造られたか

畿内(奈良、大阪、京都、兵庫など)と言われる大和朝廷の中心地域で造られ始め、全国に広まりました。

6世紀ころになると、畿内では埴輪があまり造られなくなりました。ところが、関東地方では逆に、ますます埴輪を古墳に置くことが盛んになりました。畿内とは異なる、「東国文化」が栄えていました。

○埴輪はだれが造ったか

はじめの頃は、埴輪専門の工人はおらず、古墳を作るときに土器の工人などがあつめられて造っていたと考えられています。5世紀前半になると埴輪専門の工人がいて、埴輪専門のかまで造られました。群馬県には太田市と藤岡市に大量生産できる大きな拠点がありました。

○埴輪はなぜ、どんな考えで造ったか

王の墓という大切な場所をじゃ悪なものか

ら守りたいという思いで造られました。家や
人、動物を表した埴輪は、王様の強さや豊か
さをじまにするためや、死んだ後も王様が生
きていた時と同じ生活ができるように願って
造られたとも考えられています。人物や動物
の埴輪は東国で発展し、特に群馬県でたく
さん造られました。

「東国文化の中心は群馬だった」

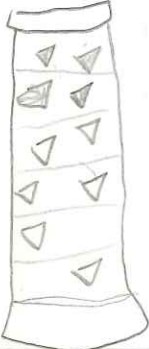

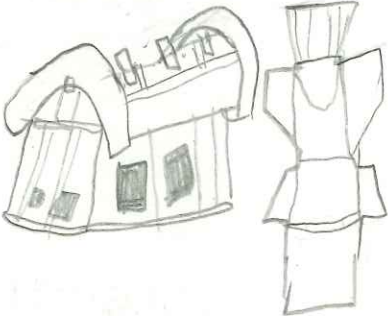

○ 国宝、国指定重要文化財の埴輪の4割は群馬産。
はじめに国宝に指定された埴輪「埴甲武人」
も太田市から出土した埴輪です。高さは1.31
メートルもあり、細部まで丁寧に芸術的で
す。6世紀後半に造られていて、技術が最高
に高まっていたことがわかります。

○ かがみつけの里博物館で古墳と埴輪を観察しました。
保渡田八幡塚古墳は5世紀末頃の古墳です。
絵巻物のような形象埴輪の群像がすごいです。
円筒埴輪は6000本、人物・動物埴輪は100本も
置かれていました。

盾を持った人物埴輪は目はフリ上がり、何
か叫んでいるような口で、じゃ悪なものをい
かしくしている様子がよくわかりました。

大きな古墳と、このような大量の埴輪を造るこ
とができるということは、この時代の群馬にはと
ても大きな力のある王がいてとても豊かで、たく
さんの方がいたのだらうと思いました。

埴輪の発展まとめ

種類	時代	特ちょう、意味など
<p>特殊器台</p> 	<p>3世紀</p>	<p>弥生時代の岡山県でできた。透かしぼりや模様で飾られ、お供えを入れた壺の台として造られた。</p>
<p>円筒埴輪</p> 	<p>4世紀</p>	<p>特殊器台の飾りをなくして、筒形にした。古墳の棺が埋められた場所である頂上に、まよけとして置き、聖域を守ろうとした。一番大きなものは高さが242センチある</p>
<p>形象埴輪 家型・器財</p> 	<p>4世紀 中ごろ</p>	<p>王の館や武器が造られた。王の偉大さを表しているが、王が死んだ後も生きていた時と同じように館で生活できるようにするため、などの説がある。</p>
<p>人物・動物</p> 	<p>5世紀 中ごろ</p>	<p>王が生きている時に行っていた儀式や生活の様子、七くた。た時の儀式の様子を表している。東国で特に発達した。</p>

「ミニ埴輪造りに挑戦する」
 古墳に置かれた埴輪と同じ大きさのものを造る
 のは、とても難しいことなので、ミニサイズを造
 ることにしました。調べると、ちょうど群馬県埋
 蔵文化財調査センター発掘情報館で、焼かない埴
 輪づくり用粘土を販売して下さっていたので購入
 し、教えて頂いたつくり方を参考に制作しました。
 埴輪造りで気を付けたこと

- ・古墳時代の人をモデルにして造
 たように、古墳時代の服装の再現写真やイ
 ラストを見て造る。
- ・焼く埴輪を造るのと同じように、厚みを均
 一にする。
- ・王様が立派に見えるように、お墓を守る
 ように願って造る。

完成

「武人立像」のつもりが...
 ↓
 「しゃがみこんだ男」になって
 しまった。



かみ型
 「下げみずら」

うるぎ

埴輪を作っ てみて

あまりにも難しく てびっ くり!!

- ・胴体と腕をつなげるには肩が必要だった!
- ・首や肩の生地を分厚くしないと頭が乗らなかつた!
- ・空洞の丸い頭・顔をしわが寄らないようにするのが難しかった! 目をくりぬくなんてなおさら無理!
- ・髪は、かつらを作っ て頭にのせる。髪型と頭を一体化して作るのは無理だった!
- ・お尻と足の合わせ部分を分厚くしても二本足で立たせることができなかつた!
- ・粘土が乾いてくるので、手や、服のひだを作る時間かながつた!

以上のことから埴輪の形について考えたこと

- 二本足で立つ人物の腰が大きいのは立つため。立っている埴輪の足が出てくる部分は服やよろいですごく広がっている。そうしなれば立たなかつたからだと思います。ぼくの作った普通の腰では立たなかつたです。
- 台に乗ったり、座ったりしている人物が多いのは、二本足で立つのがすごく難しいからではないだろうか。

埴輪について研究した結果、疑問の答え

埴輪は、ちっとも適当に造られていませんでした。米粘土の生地の厚みを同じにしてパーツを

作り、合体させる。1メートルくらいの大きさを造る。それはとてもすごいことだ！高い技術の細かい作業です。王や国のために最高の力をこめていたのだと思います。

ぼーっとしてしているようにも見えた、くり抜かれた目は、生地を厚みを変えずに、目をはきり表すのに一番良い方法だと思っています。暗やみで、どろぼうや悪まには、おそろしい目に見えるだろうと思います。

笑っている埴輪について、気味の悪い笑いでじゃ悪なものを寄せ付けなため、と書いてある本もあ、たけど、『ひらがな日本美術史』という本には、埴輪の表情がやさしいのは、ねん土と一体となれた作り手がやさしか、たからだと書かれていました。この考えにぼくは賛成です。東国一豊かな群馬でみんなの幸せな様子が表れているのだと思います。ぼくは気持ちのいいねん土をこねながら、大昔の群馬の人たちの素晴らしさや、やさしさを知ることができました。

参考にした本、WEB資料

群馬県 『東国文化副読本』

まりこふん 『はにわ』

若狭 徹 『古埴時代ガイドブック』

橋本 治 『ひらがな日本美術史』

群馬県 埴輪の文化 埴輪の文化 埴輪の文化 埴輪の文化 埴輪の文化